

## 令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	東アジアにおける農耕の拡散・変容と牧畜社会生成過程の総合的研究
研究代表者	宮本 一夫 (九州大学・大学院人文科学研究院・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、中国大陸部において発生した農耕が、東北アジアへと拡散し、変容していく過程を明らかにするばかりでなく、その拡散と北アジアにおける牧畜民社会の成立との関係について考古学的に追究することを目的としている。</p> <p>本研究の2つの課題のうち、東アジアにおける農耕の拡散・変容の研究については、これまで応募者が蓄積してきたデータから導き出される段階論的仮説を発展させるという着実性が認められる。さらに、北アジアの牧畜社会生成過程の研究については、乾燥化に伴う農耕の衰退と牧畜社会の成立が連動するという、主に欧米の研究者がユーラシア大陸西部で提示してきた解釈を再検討し、北アジア独自の文化変容の過程を描こうとしている点で独創性が高い。本研究は、総じて文明論の新構築にも通じる研究の広がりを強く感じさせるものである。</p>